

平成28年度 勝田小学校 「豊かな心の育成」推進プラン

中期学校経営方針・「豊かな心」達成目標

児童が主体的に自己を深く見つめ、より良く生きようとする心を育てる。また、自尊感情や自己有用感を育み、自他を尊重して大切に作る心や態度を育てる。

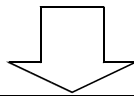
児童の実態

本校の児童は、自分の思いをのびのびと表現する明るさや素直さがあり、素朴な子どもらしさがある。自分から進んで挨拶ができた、友達を大切にできた児童も多い。また、保護者が外国の方である児童や特別な支援を要する児童も各学級に在籍しているが、偏見を持つことなく、温かく接している。

しかし、その反面、相手の立場に立ち、気持ちを考えることが苦手で、強い口調などで思いを表現したり伝え方が分からず戸惑っている児童もいる。また、弱いものに対し、暴力・暴言で攻撃的な態度をとる児童等、個々に視点をあてると課題を抱えている児童もいる。

「豊かな心の育成」に関する指導の目標・方針

- ・全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。
- ・言葉のコミュニケーションが心のつながりになるように、話す・聞く力の向上を目指す。
- ・学級・学年・学校のルールを再確認して、指導を徹底し、規範意識を育てる。
- ・学年内クラス交流や、異学年交流に力を注ぎ、豊かな関わりの中で温かい心を育てる。
- ・家庭・地域との連携を図りながら、様々な人たちとかわることでコミュニケーション能力を高める。



指針1 「道徳の時間」の充実

- 道徳教育の要となる道徳の時間の指導を通して、子どもが道徳的見方・考え方・感じ方を多様に広げ、自己を深く見つめ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身につけられるようにします。【視点1】
- ・教育活動全体を通じて行う道徳教育と、各学級の道徳の時間との連携を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。
- ・全学級「道徳の時間」の授業を家庭・地域に向けて、年一回は公開する。懇談会などで、道徳にかかわる話をして、家庭との共通理解を図る。
- ・家庭や地域における子どもの実態把握を行い、道徳の時間に生かす。

指針2 体験活動の充実

- 望ましい集団生活を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築いていこうとする自主的・実践的態度を育て、自己を生かす能力を伸ばします。【視点3】
- ・「児童会活動」「クラブ活動」「たてわり活動」「小中高・幼保小」などの『異年齢集団活動』の充実を図り、子どもたちが自主的・意欲的に行うことができるようにすると共に、互いを思いやる気持ちを育てる。
- ・体験学習を充実させるために学習材を吟味し、体験を通して自分なりの思いや考えをもち、様々な考え方や価値観を学んでいけるようにする。